

英語道弟子課程「特別稽古」

「第3回・2019年クリスマスプレゼント」

リヒャルト・シュトラウス：

交響詩『ツァラトゥストラはかく語りき』作品30

受講日 2019年11月29日(金) 7:00

受講場所 英語道弟子課程・第一稽古場
(銀座書齋・「奥の聖域」)

受講レポート提出日 2019年11月30日(土)

英語道弟子課程 弟子 H.K.

弟子専用ウェブサイト

世界レベルへの道

概説ページ

弟子専用ページ

弟子の紹介

弟子の等級

弟子選考試験

講師プロフィール

世界レベルへの道 告知 特別稽古 芸術

「第3回・2019年クリスマスプレゼント」

リヒャルト・シュトラウス：交響詩『ツアラトウストラはかく語りき』作品30

生井利率先生から transubstantiation を受ける。そのままで、先生が持っているものを

受けて、血とする。肉とする。骨とする。

これ、今日も生きていられる。

◆英語道弟子課程「特別稽古」の告知

「特別稽古」のクリスマスプレゼント

・・・第3回・2019年クリスマスプレゼント・・・

実際、transubstantiation を受ける稽古。

完全個人指導

→ 20 深い意味を伝える...

受講枠：(1名) → 生井利率先生からの完全個人指導。完全直接個人指導

1 主題 → 音楽鑑賞を超越している。→ 生井利率先生の精神性の中に入る。

<「超」音楽鑑賞経験> ← 先生を辞で見る。捉える。

様々な角度、場面、姿、形がある。→ それは、弟子のため

リヒャルト・シュトラウス(1864-1949)

交響詩『ツアラトウストラはかく語りき』作品30

2 日時 → 生井利率先生の弟子として必須。今も積み重ねて。20日。時間 12:30

2019年11月29日(金)、7:00 → 明日の朝 7:00 も今も、同じ。今も明日も、同じ。

3 稽古場 → 生井利率先生の弟子、本物の弟子、となるための、精神修養の場

英語道弟子課程・第一稽古場

(銀座書齋・「奥の聖域」)

→ 先生のすべてであり、一部である。宇宙のすべてである。先生の中にあるものを、弟子の目で見てわかるようにされた空間。

4 申し込み

受講枠：(1名)

人生で最高の祝福を、受ける場所。これは、吹けば飛ぶ「埃」以下である。→ 先生の迷作

2019年11月28日(木)まで。→ 受諾いただいた。

電話のみ。

→ 今日中!!

この告知ページをプリントし、精読の上、1-1 にまとめること。

英語道弟子課程 弟子専用ウェブサイト「世界レベルへの道」

「第3回・2019年クリスマスプレゼント」

リヒャルト・シュトラウス：交響詩『ツァラトゥストラはかく語りき』作品30

2019年11月28日 告知

◆英語道弟子課程「特別稽古」の告知

・・・第3回・2019年クリスマスプレゼント・・・

完全個人指導

受講枠：1名

1 主題

〈"超"音楽鑑賞経験〉

リヒャルト・シュトラウス (1864-1949)

交響詩『ツァラトゥストラはかく語りき』作品30

2 日時

2019年11月29日(金) 7:00

3 稽古場

英語道弟子課程・第一稽古場

(銀座書斎、「奥の聖域」)

4 申し込み

受講枠：1名

2019年11月28日(木)まで。

電話のみ。

弟子は、「リヒルト・シュトラウス：交響詩『ツァラトゥストラはかく語りき』作品30」について、生井利率先生の精神性の
枠組みの中で鑑賞する特権を賦与されている。

↳ 即ち... 通常の人には、自力で、そこへ達する。
達する=こゝでできないの方が多い。

が、生井利率先生の弟子は、生井利率先生にしかわからない
レベルのところに、いきなり連れていっていったかた。
そして、直接、本質と、絶対的真理を、教授したかた。
という、「近道」を 賦与されるのだ。

埃以下しかない存在に対する、大きな祝福。

完全に清らかでなければいけない。

「リヒルト・シュトラウス：交響詩『ツァラトゥストラはかく語りき』作品30」の
鑑賞は、「生井利率先生の英知の一部」を 体験具現することに
直結している。

↳ ますます 穢れのない、濁り、曇りを一切排除
して、臨むべきである

生井利率先生の弟子への transubstantiation の体験具現を実現
するには、一生涯をかけた「リヒルト・シュトラウス：交響詩：『ツァラトゥストラ
はかく語りき』作品30」の鑑賞経験が必要不可欠である。

< 音楽作品の鑑賞前に 賦与された心、耳学問 >

< 耳学問 >

本日は、「第3回・2019クリスマスプレゼント」として、特別鑑賞を行う。
本作品を、今までどうやって聴いてきたのか？

① 初めて聴きます。

弟子として、重要な作品であるから、単に聴くだけ、モシは勿論。一音でさえて。

勝手に聴いたのだから、どうと。

初めて鑑賞する人に対する、教授・助言は...

とにかく、今の人生における、一切の固定観念、

今の自分の自身の人生経験の中で触れてきた経験。 —

幼少期、思春期、青年期 — を通って大人になるが、

音楽を聴くときは、音楽の中に完全に入ることが必要。

You should not be affected by anything.

What you need is to get rid of yourself.
(renounce)

Place my spirituality.

Place yourself to my spirituality.
(into)

一切何にも影響を受けるべきではない。

「自分」「わたし」を捨てなさい！！

わたしの精神性の中に、自分を置きなさい。

一個の個として
存する際にも！！

祝福

Place your body in the sphere of my spirituality.

体は、生井利率先生の精神性の中に置いと。

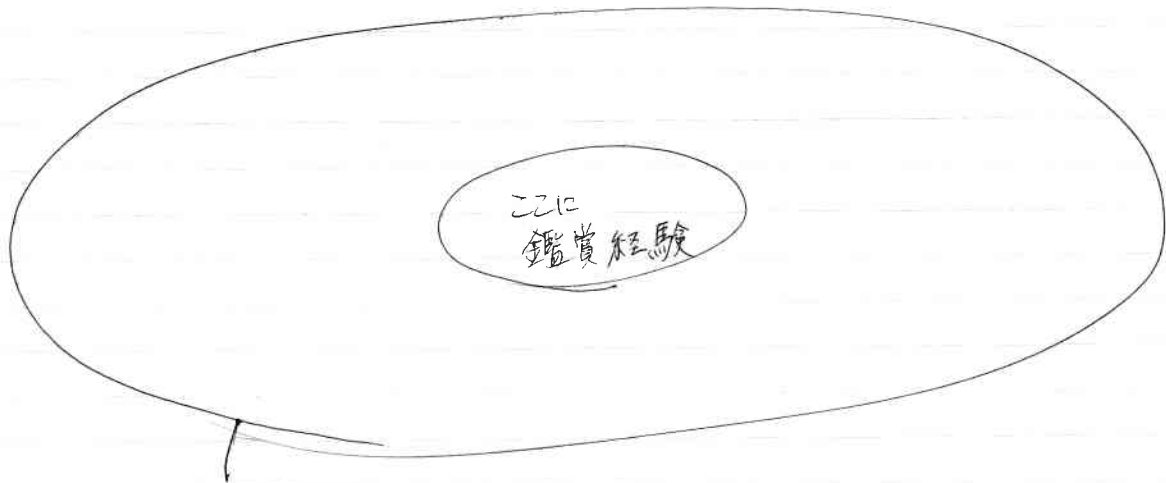
in musical piece ← この中に完全に入ると。

<先生より 鑑賞直前>

以上の状態で、「今日」を過ぎて下さい。

→ ローカルな事に気を持っていかれないこと！
大きな枠の中に、日常がある。

今日は初めてでもあるので、生井利率先生の精神性の枠の中に
自分自身を置いて、その中で、ツアマトウストラはかく語りき を聴く。



先生の大作

< 音楽鑑賞終了後、問を置いて、頂戴した 特殊講義 >

Now you listened to music not just music.

It is the very matter of how you deeply feeling in your heart.

↑
音楽をどのように感じ取ったか 重要。

Suddenly all of the things occur:

The ^{Occurrence} ~~Occurance~~ occurs all of sudden.

出来事は、突然起る。

The experience affects the future.

What you see is what you got.

経験は、未来になる。

見ているものが 私の得ること。 → 見ているもの = 私の将来。

Humble, immaculate, pure enough affect now and future

transiently affect. 謙虚さ、純粋さ、純朴さ → 将来に影響する。

^{Occurrence} ~~Occurance~~ occurs all of sudden. 出来事は突然起る。

This is ^{everlasting} ~~everlasting~~ "トランスミグレーション" ^{transmigration} ~~transmigration~~. 永久に転生する。

Experience repeats again. 経験はくり返す。 - 人類も - 個人も -

Experience just now is how essential meaning in it.

Dig a tunnel in the spiritual sphere

Dig a tunnel in the sphere of my spirituality

先生の中心
ものがきつかけたい!
掘り続けろこと。

今行っていることにいかに本質を見出すか。

occurrence

What is the meaning of ~~occurance~~?

It is beforehand decide? Without breathing the air or not,
Who decides? (長い間)

What is the meaning of existence?

Existence doesn't exist. What is the existence?

It is a delusion! Knowledge is knowledge. People treat.
You treat. One thing is clear. You are receiving my lecture.

What is coming next to you?

出来事. って何か?

前から決まっているのか? 呼吸するしないは関係なく?

「存在」って何なのか?

「存在」があって存在するのではない。

知識は. 言葉かし. 知識は書きえない.

経験して. 知識はなる。

今. はまりにいること。

私は. 今. 生井利率先生の講義を受けている。

これがすべて。

では次は何か起きるのか?



「今」からしか次はあきない。

「今」の連続で次ができる。

< 最後の日本語でのフォロー >

○ 今日、感じたままが良い。

これが、具体的に言えるようになるまで、何年もかかる。

またここに来れるか...

← 今朝のノートに書いていたが、何故書いたのだろうか...

リポートが出来次第、出すこと。

基本は1週間後だが、早く出しても良い。

早く出した!

そっくりそのまま、書いたこと、学んだことを、

そっくり、書く、こと。

正解も、間違いないので。

何を感じて、想像して、何を学んだか、が、稽古です。



感じたまま、今すぐ書きたい。

そりでいいけれど、お心に書かれていよう。

と思ひ、一気に書いた。

〈音楽作品鑑賞レポート〉

「第3回・2019年クリスマスプレゼント」

リヒardt・シュトラウス：交響詩『ツァラトウストラはかく語りき』作品30

・音楽鑑賞中に感じたこと

音楽が始まって、すぐに感じたことは、「宇宙の始まりみたい！」
でした。暗いところがあって、そこから何かが出てくるようでした。

キラキラしていて…それは星屑の様でした。星屑の音だと感じました。

それからハープの音がすると、それはまるで銀河のようでした。

宇宙の音楽だ、宇宙が創造された様子を表している、と感じ
私はその中にいました。目の前に見える絵画が生まれる前の
ことだ…絵画には、人が描かれている…と感じました。

暫くして、今、自分が感じているこの空気感は、宇宙の空気感だな
と感じました。冷静に、考えも考えなくても、私は宇宙の中に
存在しているのですから何らの不思議は無いのですが…冷んやりして、
冷たくて、何も混じっていない、「自然」を実感している、と

実感しました。目の前にある、『最後の審判』の中に、

今まで、あんなにはずなに見えていなかった絵がある、ということにも
気が付きました。

私はどこにいたのか…完全に、東京・銀座を脱していました。

自分が、本当に、塵にたがって…いや、塵どころではないです。

塵に満ちたのです。どのように存在しているのかもわからないくらい、

これはみじんこ、糸目と、粉々にたがって、その一部です。その状態で、
宇宙の中に浮いているようでした。

音楽が大分進んだとこうで、銀河が生まれたような様子を
 感じました。そこ、音がそこにあるみたいでした。見えるようにした。
 見ていたと思います。このとき、いつもループが奏でられていました。
 ... 地球はどこにあるんだろう？ ... 行ったか、私は。
 狭いな... 見ているものが狭い。もっともっと広い。この、今いる
 ところは、もっともっと広いところだ。広いものだ。地球って？
 自然だ。それは、自然の国(星)だ。シンバルの音が響く！
 これは何だろうか... 何か生まれたみたいだ。神が、一つ一つを
 丁寧に作られたのだ。

この音楽は、地球の中で鳴っているのではない。この音の中に、
 地球は主役ではない。宇宙の中の、地球だ。

... このようなことを想像し、感じ、書き留めると、
 音楽が終了しました。

今日は、「奥の聖域」で、たく人の本質的な糸に回珠
 ながら鑑賞時間を過ぎさせていたのだと思いますが、私の中では、
 絵は、絵では無くなっていました。そして、「奥の聖域」が、
 宇宙であることがわかりました。生井利幸先生が、宇宙だ
 と思いました。神聖的存在です。

「自分. という存在」

「一個の存在とは」

それを考える. 考えて、使う。

このことが、本日の音楽鑑賞から感じ、学び取ったものです。

自分が生まれる前のこと。

それよりもっと前のこと。

宇宙が始まった時のこと。

距離がものすごくありそうです。実際、あります。ありますが、
“自分”という存在に命が賦与されて、埃以下で

存在している。確かに存在している。この生をどのように

使うのか。今、何に使うのか。今、何を考えるのか。

そうしたことを本日の鑑賞機会から、私の心臓に

突きつけられた感じがあります。そのように考えていく。

今自分がどこにいて、即ち、どの会社において、どんな仕事を

していて、というのは全く問題でなくなります。つまりないこと、

ちょっとした人間関係のいざこざ、もつれ、おらめ合ひ。

ストレスを感じることも... それらは本来は無問題の。

どうでも良いことだと思えます。では、今の自分は、何か、

役に立つことが行っているのか。と問うと、答えはありません。

だから追求しなくてはいけない と思いました。

今日は、生井利幸先生が隣に座ってくれました。

だから たくさんのものが 見えたり 感じたりしたと思います。

でも、本来... 一人です。一人で、今を生きたいと

いけません。そのスタート地点を、今日、頂いたような気が

します。一個の個として、孤独と向きあって、一人で

どのように、道を歩くのか、時を刻むのか。

それが、今日、頂いたことです。

今日は、音楽の鑑賞機会を賜与していただき、

ありがとうございました。

< 特殊講義のまとめ >

音楽鑑賞後に受講の、特殊講義より。

Occurrence occurs all of a sudden

は私が、音楽鑑賞後に感じた。

「自分、という一個の存在を考える」に繋がった。



この微々たる存在をどう捉え、どう使うのか、
ということ。

次の瞬間は、全く無い。どこにも存在しない。

次というものは、存在なんてしていない。

常に、「今」の最先端にいる。

次があると思ってるから 間違いを起し、
間違いを繰り返す。それが私の愚かな所。

「最初からある」なんて無い。

「次の一秒」も「明日」も無い。あたっけではない。

「今の今」からしか、次は起きない。